

今週のメニュー

■トピックス 1

◇「環境時代のビルディングエンベロップを考えるシンポジウム IN 東大」
 ー省エネ・健康リフォームをいかにして普及させるかー

■トピックス 2

◇2014 年子どもとためす環境まつり
 ー中央区月島第一小学校で開催、6 年連続で参加ー

■編集後記

■トピックス 1

◇「環境時代のビルディングエンベロップを考えるシンポジウム IN 東大」
 ー省エネ・健康リフォームをいかにして普及させるかー

VEC で主催する第 3 回の「環境時代のビルディングエンベロップを考えるシンポジウム IN 東大」を、11 月 20 日に伊藤国際学術センターで開催することになりました。

今回は、副題を「省エネ・健康リフォームについて考える」として、5 千万戸ある既存住宅の改修工事をいかに普及・促進させるかを民間の有識者と考えていきます。

建築研究所理事長の坂本雄三氏、住宅技術評論家の南雄三氏を中心に民間で活躍されている専門家から省エネ・健康リフォームの成功例を紹介頂き、パネルディスカッションにより、住宅を所有し住まう立場、住宅を設計・施工する立場、建材を供給する立場、建物の資産価値を評価する立場からの率直な意見を交わし、課題を明らかにし、実行性のある対策を模索することを目的としています。

「平成 25 年省エネルギー基準」「建材トップランナー制度」の制定により、窓ではドイツのもっとも優れた断熱基準を上回る製品が続々と上市されるなど、既に新築市場では省エネ、断熱性能に優れた建材や住宅が増えつつあります。しかし、既存の住宅・建築物の断熱性能向上は思うようには進んでいません。例えば、断熱投資に見合うだけの住宅資産価値が上がらないことなどは一つの障害となっています。

こうしたリフォームに係わる様々な問題点を明らかにし、既存住宅の省エネ、快適リフォームの促進につながることを期待しております。

断熱性能向上は、決して寒冷地域だけの問題ではありません。首都圏の抱える課題も含めて住宅・建築物のリフォームのあり方について議論・提言する貴重な機会であり、有意義な交流の場ともなりますので、奮ってご参加いただければ幸いです。



[ダウンロード](#)

■トピックス 2

◇2014 年子どもとためす環境まつり

—中央区月島第一小学校で開催、6 年連続で参加—

10 月 11 日（土）に、中央区環境保全ネットワーク主催、中央区共催、環境省関東地方環境事務所、東京都環境局、東京商工会議所中央支部、中央区社会福祉協議会後援、34 の企業・団体協賛、月島第一小学校 PTA、月島警察署、東京カレッジ・オブ・カイロプラクティック協力、中央区立の小学校 8 校が参加し、「子どもとためす環境まつり」が、中央区立月島第一小学校で開催されました。塩ビ工業・環境協会（VEC）は、6 年連続で参加・出展いたしました。

「子どもとためす環境まつり」は、環境問題についてより理解度を深めることを目指し、子どもたちや地域の方々を対象に次世代へ向けた体験学習型を活動の柱に据えて行っている同ネットワークによるイベントで、当協会では、「NPO 法人持続可能な社会を作る元気ネット」と共同で参加したことを契機に、この活動に共鳴し、環境学習の応援をしています。



VEC ブース

VEC ブースでは、いろいろなプラスチックがその特性に応じた様々な場面で使われ、暮らしに役立っていること、その中でも塩ビは省資源、長寿命な素材でマテリアルリサイクル性などの環境性能に優れることなどを理解していただくため、製品を展示、紹介しています。今年は、“PVC Design Award 2012” の受賞作品である「Ori 美」（塩ビ製折り紙）を使って、“しゅりけん”と“ブレスレット”をその場で作って貰い、実際に触れていただくことでクリアカラーの軟質塩ビの良さを理解していただきました。

塩ビの特徴を説明する展示品の食品サンプル、地球儀、消しゴムなども子供たちに人気でしたが、一緒に参加していただいたお父さん、お母さんたちには、省エネに貢献する塩ビのできている樹脂窓の説明に興味を持っていただき、いろいろな質問を受けることとなり、参加された家族のみなさんの環境意識の高さも感じました。

絶好の天気にも恵まれ、矢田区長様をはじめ、非常に多くの地元市民、小学生が参加され、同ネットワークのお話ではこれまでで最高の人出ということで、「Ori 美」もトータルで 150 名近い方々に触れていただくことができました。例年のように、この会の運用・推進に欠かせなくなってきたサーモンプロジェクトの子どもたちも今年は総勢 36 名が参加して活動しているとのことで、プロジェクトが着実に根付いているのを感じました。



「Ori 美」(上)を使って折った
“しゅりけん”と“ブレスレット”

3階体育館では、中央区環境土木部の各課の方々が、間伐材で“ミニカーづくり”や“ミニブーケづくり”など、各ブースでの色々な工作・体験学習などに参加された方たちは有意義な時間を過ごされたことと思います。また、「ASPEED JAPAN ケータイゴリラチーム」という20代前半の若者たちが使用済携帯電話を回収し、リサイクルで得た収益を、ゴリラを保護するお金とアフリカ現地の団体に寄付する取り組みが印象に残りました。

お世話をされた実行委員会の方々の努力で今年も無事に終わることが出来ました。感謝致しますと共に、今後とも、この地道な活動を応援していきたいと思っています。

■ 編集後記

先日東京都調布市の武者小路実篤記念館に行ってきました。実篤が晩年をすごした邸宅を利用した公園があります。案内で公園内に「ヒカリモ」という大変珍しい、光に反射して黄金色に輝く藻が鑑賞できる水溜りがあることを知り、「ヒカリモ」のある水溜りを探して見てきました。最近青色発光ダイオードが話題になっていますが、人工的な輝きとは対照的に、小さな水溜りに映える自然の珍しい景色に思わず興味がわきました。(UCH)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp